

年間第4主日C1

「貧しい人に福音を」

ルカ4・21-30

今日読まれる福音書は、先週の箇所の後半部です。
イエスの郷里ナザレにおけるイエスの言動とそれに対する人々の反応について描かれています。すなわち、一方でナザレの会堂でイエスが語られたことを聞いた人々はイエスをほめたたえ、その恵み深い言葉に驚きました。他方でイエスを受け入れることのできない人々もいた（ルカ4・21-30）
ということを描いているのです。

イエスがナザレで受け入れられなかったという記事は、すべての福音史家が書き記していますが、この出来事についてはルカのみが記述しています。しかもマタイ、マルコはガリラヤ宣教の終わりにのせていますが、ルカは宣教生活のはじめになっています。ルカはイエスの宣教の初めから、イエスの言葉を喜ぶ人々と反対する人々がいることを書き記したかったのです。

なぜ、イエスの言葉を喜ばない人々がいるのでしょうか？皆さんはどう思いますか？人々がイエスを受け入れなかった理由は二つあると考えられます。

第一の理由は「この人はヨセフの子ではないか」という言葉に表されています。ここには、少し小ばかにしたようなニュアンスが感じられますね。それは、「わたしたちがよく知っている、あのヨセフの息子が偉そうに教えている」というようなニュアンスです。これが他所から来た人だったら「すばらしい預言者だ」と受け入れたかもしれません。つまり、人々はイエスのことを「よく知っている」という先入観によって受け入れることができなかったのです。

第二の理由は先週の福音にあった「**貧しい人に福音を**」というイエスの教えを受け入れられなかったことであるといえるでしょう。当時会堂に集まっていたのは比較的恵まれていた人々でした。貧しい人や体の不自由な人、病気の人などは会堂に入ることもゆるされませんでした。罪人として排除されていたのです。そのような人々を招き、仲間に入れるイエスも排除されるべき存在だったのです。

イエスは貧しい人や罪人には優しく接し、金持ちや権力者には厳しい態度を示されました。会堂に集まっている人々の態度はそのような人々の立場を代表しているといえるでしょう。